

集団健診の場で全職員面談を実施 心身のハイリスク者の抽出に活用

平塚市では、集団健診の場に保健師が出向き、定期健診を受診する全職員への面談を実施している。体の不調だけでなく、メンタルヘルスのハイリスク者の抽出にもつながっている、この取り組みについて紹介する。

健診受診率はほぼ100%

平塚市職員の定期健診(労働安全衛生法に基づく事業主健診)は、毎

年7～8月中旬に4日間、12月中旬に3日間、市庁舎周辺の会場を借りて集団健診で行われている。メインは夏の健診だが、そこで受診できなかった

た人を冬の健診でフォローする。また、35歳以上の職員は、集団健診のかわりに神奈川県市町村職員共済組合が行っている人間ドックを選択することもできる。

健診の受診率は、病休、育休職員等の職員を除けばほぼ100%。

「集団健診にすることで、事前に日程も決まり、職場でも調整しやすく、受診しやすい環境づくりができているのだと思います。前任の保健

師たちが定期健診に力を入れてくれていたおかげで、年に1回健診を受けないといけないということを職員が認識してくれているので助かっています」と総務部職員課給与福利担当(健康相談室) 主査で保健師の毛呂育子さんは語る。

全職員面談は健康相談室の敷居を下げる役割も

平塚市の定期健診において特徴的



総務部職員課給与福利担当 健康相談室保健師の
毛呂(もろ)育子さん(右)と小西裕美子さん

な取り組みが、平成元年から行われている集団健診時の全職員面談だ。そもそもは、メンタルヘルス不調の職員が多くなってきたことがきっかけだった。「健康相談室の保健師が、健全な状態の職員と会える機会はありません。どうすれば早期不調の職員と話すきっかけを得られるのかを考え、集団健診での全職員面談が始まりました」と毛呂さんはいう。

事前に☒のような健康相談票を配布。職員は記入したものを当日持参し、健診の最後に面談ブースで面談を受ける。

面談を実施するのは、毛呂さんと小西裕美子さん(嘱託職員・保健師)に加え、健診業務委託先の保健師4、5人。委託先の保健師とは、事

☒ 全職員面談時に使用する健康相談票

令和元年度健康相談票
 目標の健康管理の参考とさせていただきます。以下の質問にお答えください。
 この相談票は健康管理の目的でのみ使用いたします。

相談室名: _____ 氏名(連絡先): _____
 職員番号: _____ 氏名: _____

1 次のaからkの項目について、ここ1~2ヶ月の間で 御自分の感じている状態に合う
 番号の数字に○をつけてください。

	症状がない	症状はあるが楽にするほどではない	悪くなるので心配している	心配なので寝かずに頑張りたい	治療を受けるほど症状が強い
a 体がだるい	1	2	3	4	5
b 頭が痛い	1	2	3	4	5
c 肩が痛い・こる	1	2	3	4	5
d 食欲がない	1	2	3	4	5
e 下痢や便秘をする	1	2	3	4	5
f 胃やおなかが痛い	1	2	3	4	5
g 腰が痛い	1	2	3	4	5
h イライラする、暴つくなる	1	2	3	4	5
i よく寝れない	1	2	3	4	5
j あなたの睡眠充足時間は何時間ですか	() 時間				
k 最近1年間の健康状態はいかがでしたか?	() 時間				

2 最近1年間の健康状態はいかがでしたか?
 1) 健康だった ()
 2) あまり健康でなかった (状態:)
 3) 病気をした (病名: 経過:)
 3 その他 御相談や御質問がありましたらお書きください。

直接保健師記入欄
 担当者名: _____
 自己報告書 必要 (配布 未・済)

前に相談票の見方や気になることが見られた職員への対応、判断の仕方などを共有しておく。健診実施直後に面談を行うため、結果が出ているのは身長、体重、血圧のみだが、前年の結果と相談票の内容を基に、面談を進めていくそう。

「メンタルの様子を探るためにいきなり、気持ちはどうですか? と聞くよりも、健診の場で体の健康をとっかかりにすることで、職員も身構えることなく話をしてくれるのではないかと思っています。そこから、職場での悩み相談などにつながっていくこともあります」と毛呂さんはいう。

短時間の面談では対応が難しい職員には、後日、健康相談室への来室を約束してもらうこともある。また、面談の結果、心身の健康について気になることがあった職員はフォロー対象としてチェックしておき、1カ月後に健診結果が返ってきたところで、フォローの働きかけをする。健診結果の数値だけが、面談の結果を活用することで、より早くに対応したほうがいい職員の優先順位をつけることにも役立っているそう。

全職員面談の効果について、毛呂さんは「心身の異変を見つけ、いち早く対処するきっかけになることはもちろん大きいですが、全職員と顔を合わせる場ということも大きな効

果だと思えます。私たちも職員を知る機会になりますし、職員が私たちを知る機会になって、何かあったときに相談に来やすくなる、健康相談室の敷居を低くすることにつながっていると思います」と語る。逆に、健康相談室に行くほどではないけれど、面談の場だったら気軽に相談できる、という声もあるそう。

今後は重症化予防にも力を入れていきたい

最後に、毛呂さんに今後の展望を聞いた。

「今後、就労年齢が60歳以上に引き上げられるため、職員には高齢になっても元気に就労できる心身を保持していただきたい。それを考えたときに、健診受診率に比べて、特定保健指導の完了率が低いことが気になっていきます。せっかくの機会なので対象になった方には全員受けて、翌年には対象にならないようにしていただきたいと思います。そのためにも共済組合との連携をもっと深めていきたいという思いもあります。また、服薬中で特定保健指導の対象外になった方に対する重症化予防についても、今後力を入れていきたいと思っています」。